



会報
藤井寺市観光ボランティアの会

〒583-8583 藤井寺市岡1-1-1 (藤井寺市役所 藤井寺市観光協会内)
 TEL : 072-939-1096 FAX : 072-936-9777

藤井寺 観光 ボランティア
検 索



第 23 号 2019 年 7 月

百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録、おめでとうございま

藤井寺市観光ボランティアの会 会長 鈴木繁實

日頃より当会にご支援、ご参加いただきありがとうございます。本年 4 月より当会も新年度に入り、令和元年度を迎えています。本年度もよろしくお願い申し上げます。

7 月、ユネスコは百舌鳥・古市古墳群を世界文化遺産リストに記載することを発表しました。この地域の文化をご案内する当会としてもうれしい限りです。関係した方々、自治体、市民の皆様にご心よりお喜び申し上げます。

世界遺産は、文字通り、その地域や国の遺産だけでなく世界の人々が共有する遺産です。私たちは、大切な百舌鳥・古市古墳群を守り、訪れる方々をご案内するためにできる限りの役割を果たしたいと思っております。

さて本年度の取り組みは、古市古墳群の世界文化遺産登録に対応する方策を重点に取り組みます。当会主催の“ふじいでら春季・秋季ウォーク”は登録記念として充実した内容で催す予定です。お申し込みによるガイドは、大幅に増えるお客様への対応に柔軟に取り組みます。また地域の自治体、団体が催すイベントに積極的に参加し、域内、域外の皆様に満足いただける体制をとります。さらに記念グッズ、記念発行物なども計画しています。

外国からの来訪者に対する英語ガイドも取り組みを始めています。またホームページの充実のほか SNS による情報発信も計画しています。

“うるわしいみささぎの地、古市古墳群”にどうぞお越しください。お待ちしております。

《 令和元年度にむけて 》 各部からの一言

世界遺産部

令和の幕開けと念願の百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録が重なる中、検討チームでまとめた内容を中心に、会独自のイベントの企画・運営、関連団体との連携・協力を通して登録の意義を噛みしめ、そして我々も市民やお客様も楽しめる…そんな活動の一年にしたいと思っております。 (岡田)

イベント部

令和元年新しい時代に向かい、平成から引き継いできました藤まつり、梅まつりをはじめ各種イベントについては、今日までの活動の更なる充実と新しい試みに取り組みます。そして市民とのふれ合いや和を深める場を増やせるよう、気持ちも新たに前進して行こうと考えています。 (田仲)

ガイド部

我々にとっての令和元年は世界文化遺産登録の元年でもあります。今後古市古墳群への来訪者の急な増加が予測されます。これに対応して多くのお客様をお迎えするには、コース設定の見直しのほか、ガイド活動に全会員の積極的な参加を期待しています。 (坂谷)

研修部

日本国内外から様々な分野に関心を持った人々の訪問が予想されます。その中で、研修諸行事として、古市古墳群はもとより、関連する歴史・資産等の、知識や情報の「質」の充実を計ります。勉強会等を企画・立案し、実施していきたいと思っております。 (高橋)

《 道明寺天満宮 梅まつり 》

道明寺天満宮では梅の咲き具合を心配しながら梅まつりが開催された。今年は2月9日から28日迄境内に当会のテントブースを梅や参詣の方々に天満宮の縁起や古墳の説明をしたり、古市古墳の配布などを行いました。

世界文化遺産登録に向けての活動も理解され、熱心に聞いてくも年々増えているように見受けられました。当初は「梅はいかがでと聞きますと「まだ早かったですかね」との返事でしたが、後半も良く花も見事に咲いて、猿回しの演技にお客様も喜んでおられ

お客様を道明寺へご案内しました折、在日アメリカ人親子に何と「御朱印はどこで？」と声を掛けられました。新1年生になるお嬢さんが朱印集めを始めたとも声も弾んでいました。また、奉納俳句は年々増加しているため新たに大きな投句箱を用意、投句数は341句でした。お越しいただいた皆様ありがとうございます。
(森直)



《 ふじいでら春季ウォーク 》 古市古墳群 一観梅と巨大古墳と石棺とー 3月2日(土)

早春の穏やかな日のに147名の皆様が、満開の梅が香る道明寺天満宮から出発しました。橿原市からは奈良を見尽くしたと言う方、また古墳に関心があり今城塚古墳近くから参加のご夫婦、仲間と利き酒を楽しむ方、様々な地域から色々な興味と期待を持って来られました。

天満宮の復元修羅から始まり、修羅出土の三ツ塚古墳。古墳公園として復活した盾塚古墳。圧倒的に巨大な応神天皇陵古墳や登って展望が楽しめる古室山古墳など、古墳の多さと歴史に驚きの声が聞かれました。

沢田八幡神社では社殿と鳥居の間を電車が通り「ほおー」と感嘆の声と共に笑顔がこぼれた、藤井寺の珍八景。市立図書館で重要文化財の小修羅や和紙で作ったジオラマ『古墳をつくる』を見学の後、大井ふれあいらんどで眺望を満喫しての昼食。午後は梅と菜の花が満開の津堂城山古墳へ。ここで発掘された水鳥の埴輪、重厚な石棺のレプリカはいっきに古代に誘います。世界文化遺産を目指す古市古墳群の多彩な魅力と一緒に歩いて下さった方々と共感できた一日でした。
(山本)



《 葛井寺 藤まつり 》 ～古代衣装撮影会～

今年も、葛井寺「藤まつり」に合わせて境内に当会のテントを設営し4月19日から29日の間、参拝者に境内や周辺の見所などのご案内をしました。20日と21日の土日、ご希望の方に天平の衣装を着ていただく古代衣装撮影会を開催しました。古代衣装に着替えられたご一家は、恥ずかしがっておられたお父さんも藤棚の下で写真撮影をしている間に笑顔になり、家族みんなでいろいろなポーズを取られる様子が、微笑ましく印象に残りました。昨年の自分たちの写真が、テントに貼られているのを見つけて大喜びの姉妹や、古代衣装の男性に記念写真をお願いしている参拝者など、多くの方々が楽しんでおられたようです。

当初の撮影会の藤は三分咲き程度でしたので、花が咲きそろった28日も急遽追加で催すことになりました。目の回る3日間でしたが、約120名の方に参加して頂き、境内は華やかな雰囲気でも賑わっていました。咲き誇る花とたくさんの方々の笑顔の中、数多くの参拝者でミニガイドも大盛況に終わりました。(木下)



《 小学校世界遺産学習 フィールドワーク 》

藤井寺市内7校の全ての小学6年生は、「世界遺産学習」として古市古墳群について藤井寺市教育委員会主催による授業を受けます。すでに4月には学校で古墳の基本的な勉強をし、それに続いて5月は各校毎に市内の古墳をめぐる。当会では古墳のガイド役として毎年お手伝いをさせて頂いております。1校は残念ながら雨で実施ができませんでしたが、6校510名が参加しました。

班毎に少人数でまとめ、首から下げたボードにメモを取りながら真剣な表情で古墳を見つめていました。私たちの問いかけにも屈託なく答えてくれる素直で元気な子どもたちです。学校近くにある仲哀天皇陵古墳は知っているとっていた子どもたちも、初めて見る応神天皇陵古墳の大きさに驚き、また大鳥塚古墳ではドングリを見つけたりして、最後は古室山古墳の上に集合しました。

古墳って大きいという実感とともに、今日の体験で今まで以上に興味や関心を持ってくれたことでしょう。「すごい古墳がある街だよ」ともって見て歩いて、世界に誇る古市古墳群を心に留めて成長して欲しいと思いました。(山崎)



《 南葛城の古墳を訪ねて 》 現地研修会 3月20日(水)

絶好の散策日和、のどかな忍海駅に集まり、すぐ近くの葛城市歴史博物館へ。屋敷山古墳出土の竜山石の長持型石棺をじかに触ることができ、ちょっぴり古代への思いに浸りました。「井部」と書かれた墨書土器があり、出土した当時遣唐留学生「井真成」の故郷はどこ？という報道があったようです。「井真成の墓誌」のレプリカを所蔵する藤井寺市との表立った論争は立ち消えになり、「これに興味を持たれるのは藤井寺市の方だけです」と笑いながらも少し残念そうでした。次は顕宗天皇、仁賢天皇の姉また叔母とも言われる飯豊青命が祀られる角刺神社へ。そこは飯豊青皇女が一時的に朝政をとられたとされる忍海角刺野宮跡地でもあります。すぐ近くの飯豊天皇埴口丘陵と藤井寺にある仁賢天皇陵との関係に歴史の愉しさを思いました。

西に向かって武家屋敷町が偲ばれる閑静な通りを行くと葛城王の墓といわれる古墳がある屋敷山公園に出ました。最終地点は、万葉集で有名な柿本人麻呂が祀られる柿本神社で、藤井寺との繋がりを感じた南葛城の研修は終わりました。(山崎)



市内のぷちニュース



井真成記念碑除幕式
葛井寺 4月29日



移設された石室



道明寺歴史まつり 5月4日石川河敷
古代衣装行列・ミニウォークで参加

藤の森古墳 昭和40年大阪府水道部美陵ポンプ場建設で藤の森古墳が発見され、調査後破壊されました。その時、藤の森古墳に築かれていた横穴式石室はポンプ場敷地内に移築されました。今回その石室がアイセルシュラホール敷地内に再移築されました。(清瀧)

大井という村の物語 5

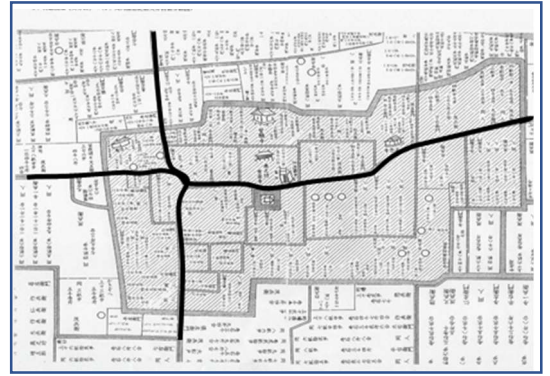
樽野 優 エッセイスト

大井という村はなぜか要塞都市でもないのに村の造りは城塞造りになっているのです。

村の中央を東西に走るのと西側に南北に走る二つのメイン道路は、ゆるやかなカーブになっていて一直線に見通すことが出来ないのです(図の黒線部分)。しかも道幅は狭く、昔からせいぜいリヤカーが通れる程度で、今でも自転車やバイクはともかく軽四輪より大きい車は行き違いができません。宅配便の車などが入ってきて、停めるところがありません。

またメイン道路に通じる狭い路地は、城造りに用いられた「アテ曲げ」と呼ばれる「冂型」になっているのです。これは、あきらかに外敵が村に侵入してきたときに阻止したり迎え撃ったりするためのものです(図の細街路部分)。では、大井という村はなぜ城塞造りになっていて、誰がどこを攻めてくるのか、誰がどこを護るための造りなのか。詳しくは次回述べます。

河内国志紀郡大井村領分絵図



古墳のある風景 14

川上 恵 エッセイスト

濠の中の巡礼道

街道が好きだ。

気の遠くなるほどの年月をかけ、男や女、老人や子供が歩き踏みしめ造られてきた確かな道。素朴な温もりを足裏が感じる道。

街道を歩くとき、そして古人が眺めただろう景色を、私もまた眺めるとき、その長大な時間の流れに畏怖を覚え、一方では、同じ空間を共有している不思議さに、懐かしいような切ないような感傷にとらわれる。

なかでもひたむきな巡礼街道に心惹かれる。

スペインのサンティアゴ巡礼路、高野・熊野詣に伊勢詣、そして西国巡礼……。洋の東西を問わず巡礼街道は存在するが、古墳を横切る祈りの道は、そうざらにはないだろう。

清寧天皇陵の濠の中を、西国33ヵ所参りの巡礼街道が横切っている。

巡礼道は4番札所の槇尾寺から五番の葛井寺へと向かい、濠に囲まれた古墳の裾を南北につつましく伸びている。なんとも勿体なくも有難い道である。

目をとじれば、白い衣の巡礼者が一列になって、天皇の御霊に頭を垂れつつ、緑の古墳の中を観音様を念じながら歩くさまが見えるようだ。

葛井寺で出会う千手観音はどんなお姿だろかと心弾ませ、祈り、ただひたすらに歩く、崇高でひたむきな街道である。

昔もいまも巡礼者の姿は清らかで美しい。

清寧天皇は民を愛する心優しい天皇だったそうだ。

そんな天皇の陵を巡礼道が渡っているのはなんとも興味深いことである。

現在も巡礼街道は健在だが、残念ながら古墳の中には入れない。わたくしはまた苦悩を生きるのでしょうか。 清寧天皇陵古墳→

